

＜ 鹿島台商業高校、最後の入学式… ＞

4月8日（水）この日、グラウンドの桜の花びらは、ひときわ眩く風に舞っていた。昭和44年、鹿島台商業高校として開設した歴史が、新設校開校に伴う再編という形で最後の入学式を迎えた。これまで49年間の時の中で、7696名という卒業生を輩出してきた。この学び舎で最後の3年間で学ぶ生徒たちは14名。生徒を代表し、入学の宣誓を行



った高橋優衣さんは「この場所で過ごす1日1日を何よりも大切に、最高の3年間で創り上げたい」と力強く述べた。1～3年生まで生徒が在籍する今年を最後に、来年度は2・3年生、再来年度は3年生のみの学校生活を送ることになる。職員としても生徒に有意義な時間を提供していきたい。

＜ 伝統ある商業の歴史を体感する鹿島台互市 ＞



いつから続いているのだろうか。地域企業の協力をいただきながら、鹿島台の伝統行事の互市に参加している。生徒たちは、この学習を通して、商業教育の実践を味わう。金銭の受け渡し、その際に必要な言葉かけ「ありがとうございました」「いらっしゃいませ」「〇〇はいかがでしょう」などの接客、また店内のレイアウトなども含め3日間の店頭販売を通して一歩ずつ成長を遂げている。2年前から東北プレス工業様とハタナカコーヒー・スター様からの支援を受け、ブレンドのドリップバッグコーヒーやコーヒーの販売実習を行い、多くの学びを得てきた。お年寄りが多いこのイベントでは、本校の生徒の姿が、町の賑わいに爽やかな風を送っているようにも感じる。

今年度はまた「秋の互市」が11月10日（火）～12日（木）に実施される。学校として現在の形態で参加していける最後の機会かもしれない。多くの皆様に祭りを楽しんでもらえるよう生徒、並びに教職員も準備を進めたい。

